

## 9 図書館及び図書等の資料、学術情報

### 【目的・目標】

図書館は、教育及び研究調査に必要な図書館資料を収集・整理・保存して、本学の教職員及び学生等の利用に供することを目的とする。今後、より一層教育研究等を支援するため、学生の知的興味の喚起、利用環境、利便性の向上、地域住民への情報発信及び地域への開放促進を目標とする。

### 9 - 1 図書、図書館の整備

#### 9 - 1 - 1 中央図書館

##### ( 1 ) 図書、学術、視聴覚資料等の整備

### 【現状の説明】

総受入冊数( 新設特別予算を含む )は、2003 年度は和書 3,652 冊・洋書 1,566 冊( 計 5,218 冊 )、2004 年度は、和書 23,239 冊・洋書 2,214 冊 ( 計 25,453 冊 ; 女子短大からの移管図書は和書 18,488 冊、洋書 730 冊の計 19,218 冊 )、2005 年度は和書 3,642 冊・洋書 1,255 冊で、合計 4,897 冊であった。視聴覚資料の受入数は 2003 年度 1,028 点、2004 年度 5,416 点、2005 年度 408 点であった。雑誌所蔵タイトル数は 2003 年度末では和雑誌 245 タイトル・洋雑誌 350 タイトル、2004 年度末では和雑誌 253 タイトル・洋雑誌 351 タイトル、2005 年度末では和雑誌 253 タイトル・洋雑誌 351 タイトルである。

学術雑誌の購入は全教員のアンケートに基づき、図書委員会で毎年検討し決定している。一部外国雑誌の購入を電子ジャーナルで提供している。

書架の狭隘の問題解決や利用者の利便性向上の観点から、工学関連の技術ジャーナルを中心として電子ジャーナルの導入に関する検討を開始しており、2008 年 1 月からは電子ジャーナルを大幅に導入し、利用を開始することが審議されている。導入後はその状況を踏まえ、さらに検討・改善をしていく。

### 【点検・評価】【長所と問題点】

2003 年度は女子短大からの図書移管、アニメーション学科新設第 2 期分の受入れなどで資料の大幅な増加があったが、同時に、重複図書及び利用度の低い図書約 4,000 冊を除籍した。アニメーション学科の新設に伴い導入したコミック資料は、閲覧希望者が多く、勉強スペースを圧迫したため 2004 年度以降はアニメーション学科に保管を依頼した。2004 年度・2005 年度に Web of Science のトライアル導入を有志の教員の協力で実施したほか、2005 年度は、さらに各種の電子化トライアル導入を行った。

洋雑誌の単価は毎年確実に上昇しており、一方で予算の増加は望めないため、全体の購読雑誌量は毎年減少させざるを得ない。このため、新規購入希望雑誌の調査( 隔年 )と、継続希望( 毎年 )に関するアンケート結果を行い、図書委員会での審議を経て購入してい

る。ただ、雑誌により単価が大きく異なるため、継続希望数と単価との兼ね合いが難しいことが問題となっている。

## (2) 図書館施設の規模、機器・備品の整備

### 【現状の説明】

#### (1) 図書館施設の規模

現在の中央図書館は 2000 年 4 月にリニューアルオープンしたものである。その延べ床面積は 3139 m<sup>2</sup>で、収蔵能力は約 18 万冊である。閲覧座席数は 2005 年度末で 335 席、うち個人席が 51 席であり、キャンパス学生収容定員の 8.0%となっている。

#### (2) 機器備品の整備状況

2003 年度女子短大移管図書の配架のため、2 階・3 階に約 1.1 万冊分の書架を増設し、オールリージョン DVD デッキを導入した。2004 年度はパソコン対応型の新図書館システム (E-Cats Library) を 9 月に導入した。また、視聴覚ブース(個人用・少人数グループ用各 2 台)を増設し、監視カメラ 4 台設置した。2005 年度はセキュリティの向上のため、監視カメラをさらに 4 台追加設置した。

### 【点検・評価】【長所と問題点】

新図書館システムに関しては、本学資料と他大学の資料の同時検索機能など利便性の向上に加え、年間約 200 万円の経費節減も実現できた。しかしながら、洋雑誌の購読料が毎年確実に値上がりしており、予算の増加が難しい現状にあっては購入雑誌を絞り込まざるを得ない状況である。

また、学術情報の電子化サービスは利便性の向上による研究活動支援効果が高く、データベース型ツールは研究室から無料でアクセスできるため、好評である。しかし、電子化サービスのコストは紙媒体と比較して高つく。そのため、電子化サービスへの切り替えには希望状況や利用頻度を予算の制限内で勘案しなければならない。

ILL (Inter Library Loan System) システムでは、文献所蔵機関のリストにより入手依頼先の選択が可能であり、本学から外部への文献複写依頼だけでなく、外部から本学への依頼も徐々に増えつつある。

芸術学部の学生数の増加に伴い、2005 年度に応急的に館内の閲覧席を追加した。しかし情報コンセントが利用できる席については必ずしも十分ではないと考えている。

## (3) 図書館利用者への利用上の配慮

### 【現状の説明】

#### (1) 開館日数、開館時間及び入館者数

開館時間は平日が 9:10~19:30、土曜日が 9:10~17:00 であり、貸出は閉館 10 分前迄である。なお、夏季・冬季休暇中は 17:00 までである。図 9-1 に過去 3 年間の開館日数間と入館者数を示す。

図 9 - 1 中央図書館の入館数

年 度	2003	2004	2005
開 館 日 数(日)	266	271	283
入 館 者 総 数(人)	117,035	131,870	143,589
平均入館者数(人/日)	520	487	507

### (2) 貸出条件及び貸出数

館外貸出の対象資料、期間、冊数等は利用規程によっている。冊数は、1年生～3年生は4冊/14日、4年生・大学院生は8冊/30日、教職員は30冊/180日となっている。図9-2に中央図書館における図書の貸出状況を示す。

図 9 - 2 中央図書館における図書の貸出状況(冊)

学 部	工学部			芸術学部(厚木)			工学研究科		
	2003	2004	2005	2003	2004	2005	2003	2004	2005
貸出延冊数	18,750	17,662	14,073	8,422	10,984	11,201	1,694	2,533	2,134
1人あたり 貸出冊数	7.4	7.0	5.7	7.3	7.5	7.0	13.7	17.2	16.0

### (3) レファレンスサービスと相互協力

中央図書館は他大学の図書館などの他機関との間で、文献複写や図書貸借などのレファレンスサービスと相互協力を行っている。図9-3に2003年度から2005年度の実施状況を示す。

図 9 - 3 レファレンスサービスの相互協力状況(件)

区 分		中央図書館 他機関 (依頼)						他機関 中央図書館 (受付)		
		学 生			教 職 員					
年 度		2003	2004	2005	2003	2004	2005	2003	2004	2005
調査	所蔵調査	0	0	6	1	1	3	6	0	2
	文献複写	502	495	557	876	687	882	319	454	426
	図書貸借	10	8	13	23	38	28	16	19	22
	紹介状発行	6	5	7	0	1	2	53	28	47

### (4) 利用者教育

2003年度より、毎回異なるテーマで図書館活用講習会を年6回開催している。また、授業の一環としては2003年度より応用化学科、2004年度よりナノ化学・コンピュータ応用学科に対してそれぞれ1年生の授業の中で図書館利用法の授業を担当した。なお、利用者マナー向上のため、館員による館内定期巡回を実施している。

### (5) 広報活動

図書館利用促進のための図書館情報紙 “Book to the Future” を、2003年度は15回、2004年度は14回、2005年度は15回発行し、2005年度末で通算128号に達している。この情報紙には図書館の利用PRをはじめ、先生のこの1冊、就職コーナーや視聴覚資料の紹介などの記事を掲載している。また、図書館利用状況把握と利用者への活用啓蒙として

図書館アンケートを毎年行っている。

#### 【点検・評価】【長所と問題点】

学生一人当たりの貸出冊数は、これまで工学部が芸術学部より多かったが、2004年度から逆転した。学術文献の相互利用を全国の大学図書館の学術文献目録情報にアクセスできる、NII（国立情報学研究所）のILLシステムに加入することで推進している。近年、COE関係で文献複写の依頼、図書貸借が増大しているほか、NII 文献複写料金相殺サービスに加入したことによる他機関からの文献複写受付も増加している。

図書館で購読している学術文献については、利用頻度の高い冊子体についてもオンラインデータベースやCD-ROMを導入し、可能な範囲でアクセスの電子化を進め、非来館サービスを拡大しつつある。

インターネット等の利用により、情報が容易に手に入る中で、真に必要な情報を的確に収集する技術が要求されている。図書館講習会や上記の1年生向けの授業では、利用者教育と同時に、これを目的とした情報リテラシー教育も行っており、さらに拡大したい。また、パソコンを参照しながら学修できる環境の整備・強化にも努めたい。

#### （４）地域への開放状況

##### 【現状の説明】

厚木市の市民図書館との協定により、従前より市民図書館に無い図書の貸し出し等の形で地域に公開していた。2005年度より大学公開講座の参考書籍を可能な限り図書館に用意し、公開講座の参加者の中で希望者には館外に貸し出すようにしている。また、2004年度より高校生向けに夏休み期間中の図書館の開放を行っている。

#### 【点検・評価】【長所と問題点】

2005年の公開講座では登録者が3名、貸出冊数は7冊であった。また、夏休みの高校生への開放は既に2年間行っているが、利用者はまだ少ない。本図書館には高校生に人気のある一般図書が少ないこと、学習スペースや学習環境の利用目的としてもキャンパスの足の便が悪く、利用者の地域が限定されるためと思われる。

#### 9 - 1 - 2 中野図書館

##### （１）図書、学術、視聴覚資料等の整備

##### 【現状の説明】

総受入冊数（新設特別予算を含む）は、2003年度は和書1,476冊・洋書1,002冊（計2,478冊）、2004年度は、和書5,581冊・洋書1,061冊（計6,642冊）、2005年度は和書1,577冊・洋書2,184冊（計3,761冊）であった。2005年度の雑誌所蔵タイトル数は和雑誌178タイトル、洋雑誌87タイトルである。

資料の収集・受入管理に関しては、芸術学部の図書館として特色ある資料の収集に努めている。収集については各学科及び基礎教育課程の図書委員が選書をしている。また、

学生のために希望図書購入制度を設け、継続して予算を計上している。学術雑誌の購入等は図書委員会で審議し決定している。雑誌（一般雑誌）に関しては、内規により保存期間を明文化し、図書資料については、資産登録をしているが、内容が古く現状にそぐわないものは内規に従い除籍をしている。

#### 【点検・評価】【長所と問題点】

「ヴェール・サクレム」・「レスプリ・ヌーボオー」誌等 1800 年代よりの美術・デザイン・写真関連の図書 5,000 冊については、貴重図書コレクションとして、調湿書架や貴重本書架に保存している。写真関係の資料について、継続的・系統的に収集していることは評価に値するものである。

各種資料は、学部用と大学院用の区別なく配架されているので、学部生・院生ともに双方の資料を閲覧することができ、学部生でも高度な専門資料に日常的に触れることができる。その一方で資料件数が増加するため、効率的な検索システムが不可欠である。

#### (2) 図書館施設の規模、機器・備品の整備

##### 【現状の説明】

##### (1) 図書館施設の規模

1995 年 1 2 月に竣工した中野図書館の総面積は 877 m<sup>2</sup>で、1 階に集密書架、貴重書庫、2 階に開架閲覧室、視聴覚コーナー、雑誌コーナー、就職関連図書コーナー、資料展示用ガラスケース、事務室等で構成されている。閲覧席は 70 席を配置してある。

##### (2) 機器備品の整備状況

東京工芸大学図書館システムは、2004 年 9 月にシステムを NEC の E-cats - Library に切り替えた。システム関連機器として、OPAC 6 台、業務用 7 台、モノクロプリンター 1 台を設置している。視聴覚コーナーには、ブース 4 台（LD, CD, DVD のみ 2 台対応）を設置している。その他、カラーコピー機、マイクロフィッシュリーダー、BDS（資料無断持出し防止システム）を各 1 台備えてある。

#### 【点検・評価】【長所と問題点】

ワンフロア・オープンスペースを基本に、各コーナーには仕切りが無く、自由に行き来でき、関連する情報を収集することができるようになっている。貴重書架を除きすべて開架方式を採用し、収容能力は約 91,000 冊である。よく利用される図書資料は和書・洋書とも 2 階に配架しているが、スペースの関係で分断して 1 階の周密書架にも配架している。

視聴覚資料コーナーは、より広い場所の確保及び機器類の整備を含めてさらに充実を図る必要がある。

図書検索用パソコンは、自由に使用できるよう開放しているが、他の目的に使用されることもあるので、インフォバリアを導入して、目的外使用を制限する措置を講じた。

(3) 図書館利用者への利用上の配慮

【現状の説明】

(1) 開館日数、開館時間及び入館者数

閲覧座席数は70席、うち個人席が6席で学生収容定員の11.8%となっている。開館時間は平日9:10~19:00、土曜日9:10~17:00である。通常の開館時間は上記のとおりだが、夏期・冬期休暇中は17:00までである。年間開館日数は平均261日である。

過去3年間の入館者数は図9-4のとおりである。

図9-4 中野図書館の入館数

年 度	2003	2004	2005
開 館 日 数(日)	263	258	262
入 館 者 総 数(人)	30,252	30,670	25,583
平均入館者数(人/日)	115	119	98

(2) 貸出条件及び貸出数

館外貸出の対象資料、期間、冊数等は利用規程によっている。冊数は、1年生~3年生は4冊/14日、4年生・大学院生は8冊/30日、教職員は30冊/180日となっている。図9-5に中野図書館における図書の貸出状況を示す。

図9-5 中野図書館における図書の貸出状況

学 部	学部学生			大学院生		
	2003	2004	2005	2003	2004	2005
貸出延冊数	3,693	4,402	4,113	562	303	387
1人あたり 貸出冊数	6.1	7.4	7.0	15.1	8.1	6.7

(3) レファレンスサービスの相互協力

図9-6にレファレンスサービスの相互協力状況を示す。他大学・研究機関との相互利用では、本学からの利用よりも外部からの利用が多い状況である。

図9-6 レファレンスサービスの相互協力状況(件)

区 分		中野図書館 他機関 (依頼)						他機関 中野図書館 (受付)			
		学 生			教 職 員						
年 度		2003	2004	2005	2003	2004	2005	2003	2004	2005	
調査	所蔵調査	0	1	1	0	3	0	1	24	39	
	参考業務	文献複写	1	0	0	0	1	0	0	0	0
		図書貸借	0	1	1	0	3	3	0	0	0
		紹介状発行	3	0	3	0	4	0	4	3	3

#### **(4) 利用者教育及び広報活動**

図書館利用指導は、4月に3年生及び大学院芸術学研究科博士前期課程1年生を対象に実施している「図書館ガイダンス」のほかに、レファレンスワークの一環として、随時「図書館利用の仕方 OPACによる資料検索」について利用指導を行っている。また広報活動として「中野図書館今週の新书推荐」と「中野図書館報」を発行している。

#### **(5) 図書館ネットワーク**

中野図書館は日本図書館協会に加盟している。また、国立情報学研究所に接続して、同研究所に蓄積されている国内外の文献データをダウンロードして活用することで、利用者サービスの向上に役立っている。

#### **【点検・評価】【長所と問題点】**

利用者教育、広報活動としては、日ごろ図書館を利用している学生のみならず、潜在的利用者に対しても知的好奇心を喚起したり、学修意欲を刺激するような広報活動は、図書館の活性化に繋がる。情報誌の発行はそのような観点から発信を展開している。

図書館ネットワークとしては、国立情報学研究所の目録データをダウンロードしてデータを構築している。また、ILLも利用しているが、利用者は少ない。

学修図書館、研究図書館としての機能を高めるため、中野図書館の特色あるコレクションの一つである写真集の配架方法の見直しや、貴重書の展示等を行った。この結果、貴重書に興味を示す学生や、写真集の貸出が多くなった。大学図書館に求められる役割は、ますます多様化している。これを受け、2006年度からアウトソーシングにより専門的職員を配置しサービスの質の向上を図った。

#### **(4) 地域への開放状況**

#### **【現状の説明】**

生涯学習に対する関心の高さに呼応して、地域社会への開放は紹介状を必要とせず、積極的に実施している。サービスの内容は、閲覧・文献複写のみであるが、公開講座受講者には貸出も行なっている。過去3年間の来館者数は年平均33名である。

#### **【点検・評価】【長所と問題点】**

利用者の多くは、すでにWEB上で検索をして来館するパターンである。目的は本学図書館の専門収集領域である、写真関係の資料閲覧が主であるが、時にはWEB上で所蔵となっているにもかかわらず、所在不明になっている資料もあるので、迅速な処理が必要である。

## 9 - 2 学術情報へのアクセス

### 9 - 2 - 1 中央図書館

#### 【現状の説明】

中央図書館では主に学科の専門を中心として教育用・研究用の学術情報の収集を行い、OPAC で学外からのアクセスも可能な環境を整備している。本学に所蔵のない資料に関しての依頼先は NACSIS ILL を通じてが 9 割で、残りの 1 割は JST、国会図書館、BLDSC(英国国会図書館)などから入手している。また、2003 年度より NII 文献複写料金相殺サービスに加入したため、他大学からの文献複写依頼も増加の傾向にある。(9-1-1 参照)

また、神奈川県内大学図書館協議会による図書の貸出が可能である。さらに 2002 年度から私工大懇話会(首都圏私立単科 13 大学で構成される)図書館連絡会加盟大学図書館間では利用者が自由に図書館を利用し、貸出を受けられるシステムが確立されており、順調に稼働している。

#### 【点検・評価】【長所と問題点】

私工大懇話会大学図書館間での図書の貸出が、2002 年度から個人単位で可能になったため、同じ専門分野の学科をもつ大学間では、どちらか一方の大学のみで購読している雑誌などの有効利用が可能になった。なお、現在の利用実績は他大学からの本学利用(図書の貸出)の方が、本学学生の他大学利用(図書の借出)より多い。

私工大懇話会図書館連絡会の加盟大学は必ずしも地理的に近いわけではないため、他大学からの来訪利用が増えることは余り見込めないが、利用広報を継続し、サービスの周知に努めている。また、現在は各大学の購入雑誌を独自で決めているが今後は私工大懇話会大学図書館間で分担をより明確にすることも検討の価値がある。また、図書館システムの更新により、本学資料と他大学の資料が同時に検索できるようになっており、資料収集支援に貢献している。

### 9 - 2 - 2 中野図書館

#### 【現状の説明】

本学図書館(中央図書館・中野図書館)の電算システムは、2004 年 9 月に新システムに更新した。業務内容としては、資料管理、閲覧管理、図書・雑誌受入、目録作成、検索、ILL 等をシステム上で共有し、管理・運用しているので、一つの図書館として機能を果たしている。

図書館ホームページを開設しており、書誌情報の検索・提供は WEB 上の OPAC で学外からもアクセス可能な環境を整備している。新システムでは、資料の配架場所が表示されるので、利用者にとってわかりやすくなった。

また、ホームページのリンクをとおして NII をはじめ、他大学図書館、他機関等外部の蔵書検索も可能である。他大学図書館・他機関との連携は、図書館サービスの一環として行われており、情報検索が容易になったことにより増加した。

## 【点検・評価】【長所と問題点】

NACSIS の目録所在情報サービスを利用して、目録業務の標準化・省力化を図っている。図書館や研究室で購入した学術文献(図書・雑誌)は上記サービスを利用することにより、迅速に処理され提供されている。

他大学・他機関との相互協力については、利用者の統計をみると依頼より受付の方が多。受付は中野図書館にしかない資料の所蔵調査が主で、中には公立美術館や、留学生も含まれている。逆に、他大学図書館等への依頼が少ないのは、アナウンス不足も原因の一つであると考えられる。

## 【図書館及び図書館等の資料、学術情報に関する将来の改善・改革に向けた方策】

### (1) 中央図書館

必要蔵書量を長期的に見積もり、書庫増設計画を検討する。2008年1月からは電子ジャーナルを大幅に導入し、利用を開始することが決定しており、導入後はその状況を踏まえ、資料の電子化・ネットワーク利用化を検討する。また、学生からの希望の多い分野を充実させ学修図書館としての機能を強化すると共に、視聴覚資料数の増大に伴い視聴覚設備の充実を図る。さらに地域への情報発信に関しては、ホームページなどを通して積極的に行う。

### (2) 中野図書館

芸術学部図書館として図書資料だけではなく、美術館・展覧会の開催情報や、芸術系他大学の卒業制作等のカタログ類の収集に今後も力を注ぎ、学生の知的興味・関心を高める。また、研究活動の活性化のため、他大学等とのネットワークの強化や、利用環境のデジタル化、他大学関連情報の提供などを充実させる。また、情報化社会は日々進展しており、利用者のニーズに即した機器備品類の整備が今後不可欠となることから、資料のデジタル化が加速している現状を踏まえ、CD-ROM・外部データベース等の利用も視野に入れ、利便性の向上に努める。

地域への情報発信に関しては、本学図書館の特色を活かし、地域住民の関心を高めてもらうために、図書館利用案内をはじめ、各種情報源へのリンク等、ホームページの充実を図る。また、写真、デザイン、美術関係の貴重なコレクションを所蔵している特性を活かし、学生、地域住民を対象とした展示会及び講演会を実施する。

### (3) 学術情報へのアクセス

情報過多の時代にあって特色ある学術情報データベースを構築するために、本学の教育・研究の基本方針に沿った重点的収集を行う。

また、館内でのPCの提供、無線LAN環境の実現、マルチメディア利用スペースの設置等について検討し、情報アクセス支援の充実を図る。